

◎ 展示会・イベント情報

1. ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)で「やきものワールド 2019」開催

ナゴヤドームで過去 11 回開催したされた「ドームやきものワールド」が、2018 年は名称を「やきものワールド」と改め名古屋城で開催されました。

今年は、名古屋城に程近いドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)にて、国内最大級の陶磁器フェスティバル「やきものワールド」が開催されます。

開催日時： 2019 年 11 月 28 日(木)～
12 月 4 日(水) 7 日間
9:00～17:00
開催場所：ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)
名古屋市中区二の丸 1-1
入 場 料： 一般(中学生以上) 1,000 円

文化と出会い、暮らしを楽しむ「器の世界」
やきものワールド
2019年11月28日[木]-12月4日[水] 9:00-17:00
ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)

日本最大級のテーブルウェアマーケット。全国から厳選した約150ブースが大集合!
瀬戸、常滑、美濃、四日市萬古、伊賀、有田、伊万里、九谷、唐津、信楽、備前、萩、波佐見、越前、三川内、輪島、川瀬

入場料 一般(中学生以上) **1,000円**
TEL.052-221-0955
https://yakimono-world.jp/

◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】 (<https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/>)

11月2日(土)～12月22日(日)

特別企画展：愛知やきものセレクション ―県指定文化財の陶磁器―

文化財は地域の風土と長い歴史の中で育まれた、各地域に固有の社会的な資産です。愛知県において歴史上、芸術上または学術上の観点等から特に重要なものとして、県が指定した県指定文化財のうち、陶磁器に関連するものは工芸、考古、無形文化財、有形民俗文化財、史跡の分野にわたり、原始から現代にかけての多種多様な文化財が含まれています。本展は、地域における文化財の総合的な保存と活用を企図した、文化財保護法の改正施行(2019年4月)を機に、県指定の陶磁文化財を一堂に集め、愛知県における陶磁文化の豊かな世界を紹介します。



2. 石川県九谷焼美術館【石川・加賀】 (<http://www.kutani-mus.jp/documents/H31.jpg>)

11月1日(金)～12月15日(日)

企画展：東京国立近代美術館工芸館コレクション展

本展は、東京国立近代美術館工芸館が金沢に移転することを記念し、コレクション展を開催します。

3. 出光美術館【東京・千代田】 (<http://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/schedule/>)

11月23日(土・祝)～2020年2月2日(日)

企画展：やきもの入門 ―色彩・文様・造形をたのしむ

日本におけるやきもの作りは、縄文時代の初め1万6千年前まで遡ります。原始的な土器は、その後、窯造りや釉薬など基本的な作陶技術を中国や朝鮮から学ぶことで発展し、以降の時代も文様や造形において強い影響を受けました。さらに時代が下ると、やきものは、茶道や華道、宴席のうつわなど、日本独自の文化の中で新しい様式美を生みだします。本展では日本の陶磁史を通覧することで見える、やきものに込められた美の変遷を紐解きます。

4. 今右衛門古陶磁美術館【佐賀・西松浦郡】 (<https://www.imaemon.co.jp/information/museum/000466.html>)

9月12日(木)～12月22日(日)

秋の特別企画展：Celadon 秘色の世界に魅せられて「鍋島青磁」の美と技「玉」への憧れから生まれたといわれる「青磁」。その起源は中国にあり、秘色といわれた釉色の艶麗さと優美な造形は、古くから世界中の人々を魅了してきました。そのため有田においても草創期に、染付が主流であった多くの窯で同時に「青磁」が造られています。時を経て、鍋島藩窯では「青磁」の風格のある釉調を求める姿勢は変わらずとも、さらなる深化を究めます。「青磁」を器の縁のみに施す、文様の一部にひとつの色として捉える、彫刻物の全面に掛けるなど様々な表現技法のひとつとして「青磁」を扱い、崇高な美の象徴である「青磁」を鍋島の斬新な意匠性によって軽やかに、そして新たな価値観を加えた「鍋島青磁」へと昇華させます。秋の静謐な光のなか、神秘的な「青磁」の釉調と、「鍋島青磁」の技の世界をご紹介します。

